

“ はにわネット(宮崎健康福祉ネットワーク)” に加入しましょう

医療情報部長 荒木 賢二

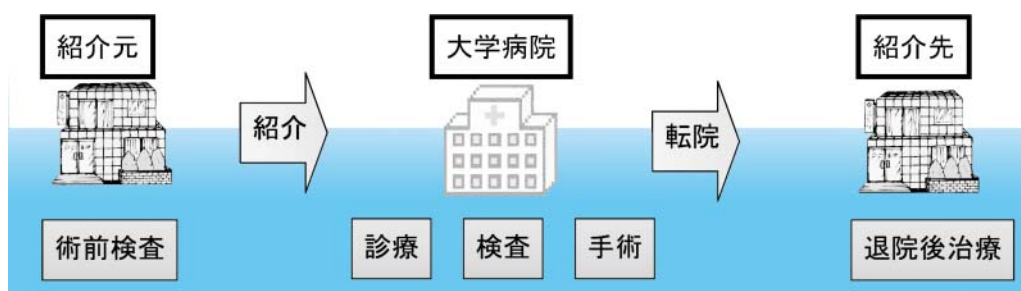
大学病院へ通院または入院されている方の多くは、県内各地の医療機関から大学病院へ紹介されていますが、今回は、そのような各医療機関から紹介された患者さん方が安心して大学病院を受診し、検査や治療を受け、またスムーズに以前のかかりつけ医で治療の継続を行えるよう“はにわネット(宮崎健康福祉ネットワーク)”のWeb電子カルテを利用するシステムを紹介します。

- (1) 県内各地の医療機関より大学病院を紹介された患者さんは、“はにわネット”に入会の手続きをし、大学病院と紹介元の医療機関を情報共有施設に登録します。
- (2) 紹介元の医師は、自分の病・医院のパソコンからWeb電子カルテにアクセスすることにより大学病院のカルテを見ることができ、紹介した患者さんが大学病院でどのような検査や治療を受けているか、いつでも詳細に知ることが出来ます。
- (3) 紹介元の医師が大学病院での診療内容についてよくわかっているため、患者さんは大学病院退院後も安心して、元の医療機関で治療の継続を行うことが出来ます。

また、“はにわネット”に入会している患者さんは、ネットワーク上からご自分のデータを書き込むことができるので、それを病・医院での診療に役立てることができますし、また医療機関と薬局の連携を行うことにより、薬の重複投与や飲み合わせの不都合も回避できるなどのメリットもあります。

このように多くの医療機関と患者さんが“はにわネット”に参加し、大学病院や県内各地の医療機関や薬局が連携することにより、より安心して疾病の治療を行うことが可能になるのです。詳しくは、はにわネットのホームページをご覧ください。

<http://www.haniwa-net.jp/>



紹介元の先生



大学病院のカルテ

検査項目	結果	単位	上層	下層	特記
白血球	7.81		0.1	0.4	標準値内
赤血球	4.66		5.2	0.1	標準値内
Hb	1.84		2.8	1.1	標準値内
血小板	12.07		0.1	0.1	標準値内
血糖	8.7		0.2	0.2	標準値内
γ-GTP	0.9		1.1	0.4	標準値内
総ビリルビン	0.9		1.2	0.2	標準値内
AST	1.09		1.17	0.4	標準値内
ALT	1.71		2.0	1.0	標準値内

あなたのカルテはあなたが登録した病院でしか見ることは出来ないから、プライバシーが漏れる心配はないよ。

膠原病・感染症内科を開設しました



膠原病・感染症内科科長 岡山 昭彦

平成16年8月より本院の内科専門外来のひとつとして膠原病・感染症内科を開設することになりました。膠原病は慢性・全身性の炎症性疾患であり、長く続く発熱、関節痛、筋肉痛、皮膚の症状、肺、心臓、腎臓などの内臓障害を起こすことがあります。一般の方々には知られていない病名が多いですが、全身性エリテマトーデス（SLE）、強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎、血管炎、シェーグレン症候群など多数の疾患がふくまれます。これらの疾患は多臓器の合併症を起こすことがあるため、さまざまな分野の専門医がいる大学病院での総合的な診断や治療の開始が患者様や一般病院の先生方のお役に立てると考えております。膠原病のなかで最も頻度の高い病気である関節リウマチに対しては、最近抗サイトカイン療法や白血球除去療法などの新しい治療が開発されており、症状や予後の改善が期待できるようになりました。膠原病・感染症内科では標準的な治療に加えて、このような新しい治療を積極的に取り入れていきたいと思っております。

本内科では膠原病のほかにも、「不明熱」と一般に呼ばれる原因のわからない長い期間続く発熱や、細菌やウイルスなどでおこる感染症の中でも総合的な診断や治療の必要な疾患診療、また病院感染症の予防などにも取り組みたいと考えております。

膠原病・感染症内科は外来のみの診療を行います（5階内科外来において当面、検査医学、第2内科所属の専門医師が担当：火曜、木曜午前中）。診療の助けとなりますので、できるだけ紹介状をお持ちいただくようお願いいたします。入院が必要な場合につきましては、現在主に膠原病・感染症の診療を担当している第2内科、および病気の性質にあわせて院内の専門診療科と共に診療を続ける予定です。また、病気が落ち着いた段階で、お近くの先生方にご紹介して病診連携を図りたいと考えております。当院での膠原病・感染症内科外来の開設が、これらの病気でお困りの患者様のご回復に役立ち、また病気の原因解明や新たな治療法の開発につながるよう努力したいと思っております。

ME機器センターが稼動しました

ME機器センター長 高崎 真弓

7月1日、1階材料部の横に、院内で長年要望の高かった「ME機器センター」が稼動を開始しました。これまで、人工呼吸器、シリンジポンプ（点滴の機械）や輸液ポンプ（点滴の機械）などの医療機器は、各病棟単位で管理していましたが、当センターの稼動により、これらの機器を当センターで一括中央管理します。

センターでは、専門の臨床工学技士が、毎日機械の状態をチェックし、定期的に整備・点検をしながら、より清潔で安全な状態で各病棟や外来に提供できる体制を作りました。

これにより、これまで病棟の医師・看護師などが行っていた機器の管理の負担が軽減されますので、医師、看護師等は、より患者さんへの治療やサービスに専念しやすくなれば良いと考えています。

今後は、扱う機器の種類も拡大し、各病棟のニーズに積極的に対応していきたいと考えています。さらに、管理している機器以外につきましても、可能なものは必要に応じて点検・修理などにも対応していきたいと考えております。



高崎センター長(中央)とセンター職員(臨床工学技士)

放射線部の先端医療機器を用いた医療

放射線部 技師長 紫 垣 誠 哉

放射線部は最先端の医療機器を備え、現在の医療に欠かせない多岐にわたる画像検査、治療などの分野で組織的に業務に取り組むとともに、高度な技術で先進医療に貢献しています。放射線部は放射線診断、核医学検査、放射線治療の3部門からなり、医師、放射線技師、看護師、受付スタッフが医療チームとして、高品質の検査・治療が安全でかつスムーズに行われるように一致協力して努力しています。

近年のコンピュータの発達により、すべての業務に画像処理、データ処理の技術が応用され、より正確に、よりスピーディに検査・治療ができるようになりました。

X線撮影検査では従来のフィルムに写す方法ではなくCR（コンピュータ・ラジオグラフィ）を用い、コンピュータで画像処理を行い、診断価値の高い写真を提供しています。

CT（コンピュータ断層）は病気の早期発見をはじめ各種診断に革命的な進歩をもたらしています。人体をらせん状に切れ目なく撮影し、数ミリ単位の病変も映し出すばかりでなく、各種臓器・血管を短時間に鮮明に撮影し、3次元の立体画像として表現することのできる最新式のマルチスライスCTが導入されています。

このように放射線部ではすべての部門にハイテク化、コンピュータ化を進めておりますが、数年のうちにすべての画像のデジタル化およびフィルムレス化を目指した医用画像情報システムを構築し、画像情報などを病院内に配信する予定です。

また、地域の医療機関が本院の画像診断や治療などの先端医療機器を手軽に利用でき、また専門の医師に相談できるように、放射線部と医療情報部が中心になり「地域医療機関による本院の放射線部先端医療機器の活用支援システム」や遠隔画像診断システム等も計画中です。

ご期待下さい。



画像診断の様子

第3内科の活動紹介

第3内科 病棟医長 床島真紀

私たち第3内科では、大学病院として高度な先進医療を行うとともに一次予防の啓蒙のため、今年度から生活習慣病について宮崎県民にむけて「市民フォーラム」と題して年4回講演会を行っています。すでに第1回目を延岡市で、第2回目を日南市で行いました。肥満、糖尿病、喫煙、脳卒中に関連した生活習慣病について講演を行い、多数の一般市民に参加していただき、ご好評をいただきました。その時に無料で血糖値やHbA1c、体脂肪、筋肉量、PWV（脈波伝播速度）などを測定しています。この健診により新たに糖尿病を指摘される方もいらっしゃるようです。今後宮崎市（11月28日MRT micc）、都城市（時期未定）で同様に講演会を行っていく予定ですので、是非参加していただきたいと思います。早期発見早期治療はもちろん重要なことですが、病気にならないための一次予防を行っていくことは、よりよい人生を送る上でなにより重要なことであると考えています。

また第3内科では、癌死の1位である肺癌の治療薬のひとつであるゲフィチニブ（商品名イレッサ）の効果を予測できる遺伝子診断を開始しました。これは、これからの先端医療におけるオーダーメイド医療、すなわち患者一人一人にとって最も効果があり、また副作用も少ない投薬を決定していく、という治療方法につながっていくものです。さらに私たちの講座ではグレリンという食欲増進作用のあるペプチドを慢性呼吸不全患者のようなやせた方に投与する事で食欲増進を図り、全身状態の改善に一役買えないものかと思っています。

私たち第3内科スタッフは、大学病院として先端医療を担うとともに、市民レベルでの病気に対する意識をもっと持っていただいて、よりよい生活を送っていただきたいと考えています。



講演会風景

団体ボランティア「なごみ会」の紹介

外来看護師長 長崎 玲子

「なごみ」会の皆さんは、3年前から宮崎大学医学部附属病院で活動しています。柳田留美子さんをリーダーとする、女性8人と男性1人の団体ボランティアです。それぞれの方が、長年ボランティア活動を経験しており現在も複数の活動に参加されています。長続きの秘訣は、自分が楽しみながら活動することだそうです。

活動の拠点は、宮崎心身障害者福祉センター内のボランティア作業室です。ボランティアで集めた布を持ち寄り、毎月第1と第2金曜日に作品の縫製作業をされています。

作品にはネクタイで作ったトイレカバー、手術の後に身体に入る管のカバーやポシエットなどがあります。手作りで温かみのある布の作品は、寂しくなりがちな入院生活を和ませてくれます。

なごみ会のメンバー紹介

伊藤 綾子、岩井ユキエ、尾花 蓉子
篠田トリエ、竹井 和郎、東郷 萬里
馬場 ミチ、森田セツ子、柳田留美子

(五十音順、敬称略)



「なごみ会」の方々と心のこもった作品

「七夕茶会」が開催されました

さる7月4日(日)、本学医学部学生の茶道部(顧問寺井救急部長)による「七夕茶会」が、病院1階の外来ロビーで開催されました。当日午前中は、茶道部の学生が、外来ホールに即席のお茶室を設け、集まった入院患者さんやそのご家族、それに医師や学生等にお茶やお菓子を振る舞いました。今回のテーマは「ふるさと」。ひとときの安らぎをと、受付には大きな氷柱、待合には蹲(つくばい)が設けられ、葦簀(よしず)囲いの茶席では金だらいに浮かべたスイカや簾にあしらわれた朝顔が異空間を創りあげていました。

お茶は抹茶にかき氷を加えた「冷たい抹茶」で、見た目と味の両方から涼を感じていただきました。

また午後からは、病院内の各病室を回る出張点前を行いました。これは病室から出ることができない患者さん向けに行ったものですが、どの患者さんからも大変喜んでいただき、中には「長く入院しているけど、こんなによくしてもらったのは初めてです」との感謝の言葉をかけていただく方もいらっしゃって、茶道部の学生からは「一医療人である前に、一人間として、患者さんと触れ合う機会を大切にしたいと思います。上級生は、茶道とは何か、また一年生にとっては、ますます茶道に邁進するよい機会になりました」との感想が聞かれました。



1階外来ホールにて



病室にて



本院の8月以降の主な催物

催物の名称	公開講座
日時	平成16年11月13日(土) 10:00~16:00、14日(日) 10:00~15:00
場所	宮崎大学清武キャンパス総合研究棟
内容	「看護師が行う呼吸理学療法」「重症集中ケア」
入場料の有無	6,200円(テキスト代を含む)
対象者	県内の看護師・准看護師
申込(照会)先	医学部総務課総務係
照会先・担当者	看護部教育担当副看護部長 水永豊子 TEL 0985(85)9210

催物の名称	糖尿病教室
日時	平成16年8月27日(水) 13:00~15:00
場所	附属病院6階 第3内科カンファレンスルーム
内容	医師による「糖尿病の基礎知識」 看護師による「シックデイの過ごし方について」 栄養士による「糖尿病の食事療法、上手な油の使い方」
日時	平成16年9月24日(水) 13:00~15:00
場所	附属病院6階 第3内科カンファレンスルーム
内容	医師による「糖尿病の基礎知識」 薬剤師による「薬の正しい使い方、糖尿病における薬物療法とは」 栄養士による「糖尿病の食事療法について、食物繊維の効用について」
対象者	当院入院中の方及び外来通院されている方及びそのご家族で事前に糖尿病教室参加申込が必要です。
照会先・担当	第三内科外来受付 TEL0985(85)9244 第三内科病棟 TEL0985(85)1229 受付時間 8:00~15:00

本院の理念

患者中心に、心のこもった最適な医療の実践
 地域の人々の要求にこたえる医療の実践
 先端医療の開発と提供
 幅広い知識・確かな技術を備えた人間性豊かな医療人の育成
 お互いを尊重し、力を合わせて医療に取り組み、働くことが楽しい病院づくり

編集事務

宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携推進センター

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200

電話(0985)85-1892